

ほげい船 令和元年 10 月

One Team

先日厚生労働省は地域医療構想に関して、急性期機能を有する公立・公的医療機関等のうち、再編・統合など具体的対応方針の再検証を要請する医療機関を公表しました。人口減少が進む中、地域医療を崩壊させず、在宅ケアへの移行を進めるには病院の再編統合は避けられないというのが基本となっています。我が国の人口 1000 人あたりの病床数は 13.05 床で、米国の 2.77 床、スウェーデンの 2.22 床などよりはるかに多いことが知られています。このことで、不要な長期入院を招いたり、重症患者を扱う急性期病床にリハビリが必要な高齢者が入院しているなど様々な課題が指摘されています。今回、高知県においても 5 病院が指摘を受け病院再編の動きが加速する可能性も考えられます。一方では、高知病院の地域における役割に対する期待も大きくなっていくものと想定されます。地域医療構想はもちろん、2025 年がゴールではなく、その先を見据えて地域で医療を提供していくために地域関係者や患者さんから必要と評価されるために、病院全職員が団結して取り組んで行くことが重要ですし、団結が大きな力を発揮することはラグビー日本代表（ブレイブブロッサムズ）の活躍が教えてくれています。我が国でラグビーのワールドカップが開催されていますが、日本チームの活躍でにわかラグビーファンが増えているようです。私も高校生の時の体育実習でラグビーをしたのでルールが少しわかる程度ですがラグビーファンの一人となっています。ラグビーは海外のチームと対戦しても歯がたたないように思っておりましたし、ゲームを見てもその実力差は著明でした。体力が関係するスポーツでスクラム、タックルどれをとっても外国人チームに対抗できるとは思えませんでした。実際、多くの国際大会で敗北し 1995 年のワールドカップではニュージーランド（オールブラックス）には 145-17 の大敗を喫しています。日本チームが大きな金星を挙げるのは 2015 年イングランドでのワールドカップで当時世界 3 位の南アフリカに終了まじか逆転のトライを決め 34-32 で勝利し、海外メディアが W 杯史上最も衝撃的な結果、スポーツ史上最大の番狂わせと報じました。このような実績を示しても、スーパーラグビーでのサンウルブズの戦績をみるとやはり、海外の強豪チームとの差は歴然としておりワールドカップでの活躍を期待していない国民が多かったとおもいます。初戦のロシア戦に 30-10 で勝利しましたが、アイルランドには厳しいと思われていて私も大敗するのではないかと心配しながら観戦しました。最初キックパスで 5 点がアイルランドに入ったときはやっぱりと思ったのですが、スクラム、タックルで負けることなく終わってみれば 19-12 と勝利し翌日の新聞はすべて、大金星と一面で大きく報道しておりました。日本選手と外国出身選手が融合しワンチームとなり多様性の強さによる勝利と言われています。すべての選手一人一人が目標に向かって自分の役割を自覚し技術を向上させ、意識統一したことも大きな勝因と言えます。このことが今の高知病院に望まれることです。基本理念である地域に信頼される病院になるためには職種を問わず全職員一人一人が病院のために何をなすべきかを考えワンチームと成りその多様性の強さを発揮することが重要と思います。